

22:12 王は祭司ヒルキヤ、シャファンの子アヒカム、ミカヤの子アクボル、書記シャファン、王の家来アサヤに次のように命じた。

22:13 「行って、この見つかった書物のことばについて、私のため、民のため、ユダ全体のために、【主】を求めよ。私たちの先祖たちがこの書物のことばに聞き従わず、すべて私たちについて記されているとおりに行わなかったために、私たちに向かって燃え上がった【主】の憤りが激しいからだ。」

22:14 そこで、祭司ヒルキヤ、アヒカム、アクボル、シャファン、アサヤは、女預言者フルダのもとに行った。彼女は、ハルハスの子ティクワの子である装束係シャルムの妻で、エルサレムの第二区に住んでいた。彼らが彼女に伝えると、

22:15 彼女は彼らに答えた。「イスラエルの神である【主】はこう言われます。『あなたがたをわたしのもとに遣わした人に言え。

22:16 【主】はこう言われる。見よ。わたしは、ユダの王が読み上げた書物のすべてのことばどおりに、この場所とその住民の上にもたらしをもちます。

22:17 彼らはわたしを捨て、ほかの神々に犠牲を供え、自分たちのすべての手のわざで、わたしの怒りを引き起こした。こうして、わたしの憤りはこの場所に燃え上がり、消えることはない。』

22:18 【主】を求めるためにあなたがたを遣わしたユダの王には、こう言いなさい。『あなたが聞いたことばについて、イスラエルの神である【主】は、こう言われる。

22:19 あなたは、わたしがこの場所とその住

民について、これは恐怖のもととなり、のしりの的となると告げたのを聞いた。そのとき、あなたは心を痛めて【主】の前にへりくだり、自分の衣を引き裂いてわたしの前で泣いたので、わたしもまた、あなたの願いを聞き入れる——【主】のことば——。

22:20 それゆえ、見よ、わたしはあなたを先祖たちのもとに集める。あなたは平安のうちに自分の墓に集められる。あなたは自分の目で、わたしがこの場所にもたらし、すべてのわざわいを見ることはない。』」彼らはそれを王に報告した。

神の民でありながら、北のイスラエルも南のユダも主に反逆し、その結果として警告どおりの苦難を招くことは決まっていた。それはすでに避けられない未来なのです。

しかしそのような流れの中でも、ヨシヤのように主に従うなら「わたしがこの場所にもたらし、すべてのわざわいを見ることはない。」と、主からのあわれみをいただくことができます。時代や周囲がどれほど主のみこころから離れていても、私たちが主に従うなら、決して無駄ではないことを知りましょう。

宗教改革による王国のきよめは、功労者としてはヨシヤが目立ちますが、ほかにもこの女預言者フルダなどが用いられたことも忘れてはなりません。これまで多くの預言者が国へのさばきを伝えて王の機嫌をそこね、殺される者さえありました。彼女は保身よりも主のみこころを第一にしたのです。

主のために生きるなら必ず信仰の同志も与えられて、主のためになれることを期待しましょう。また自分自身が主のために立ち上がった人を助けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

